

子宮頸がんの予防ワクチン 接種開始について

国際医療福祉大学病院では、平成22年3月より子宮頸がんワクチン接種を開始しております。
ご予約は、随時お電話で受け付けしております。

場所 国際医療福祉大学病院6F 予防医学センター

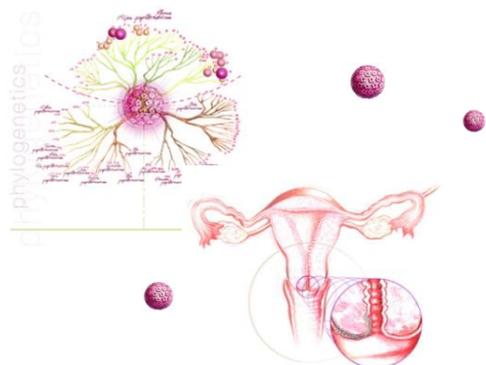
接種対象 満10歳以上の女性

接種診療科 小児科：10歳～15歳まで
婦人科：16歳以上

接種日時 小児科：毎週(水) 午後4時半～5時半
婦人科：毎週(木) 午後2時～3時

接種回数 合計3回：①初回 ②1ヶ月後 ③6ヶ月後
※3回接種することで十分な抗体が得られます。

接種費用 合計：¥48,000
初回：¥18,000 2回目：¥15,000 3回目：¥15,000
(初診料・問診料・税込み)※自費診療となります。



子宮の入り口(頸部)にできるがんを「子宮頸がん」と呼びます。唯一予防可能な癌でありながら、日本では年間約15000人が罹患し、約3500人が死亡しています。罹患率は20～30代で急増します。



ヒトパピローマウイルス(HPV)
皮膚や粘膜に存在するごくありふれたウイルスです。100種類以上ありますが、子宮頸がんの原因となるのは15種類ほどで、「発がん性HPV」と呼ばれます。感染は性行為が主ですが、STD(性行為感染症)ではありません。感染後約1割が持続感染し数年後に発症するといわれています。

ご予約・お問い合わせはお電話で受け付けいたします。
国際医療福祉大学病院 予防医学センター



0287-38-2751

8:30～17:30 (日・祝日を除く)

ワクチンの効果

- ◆ 子宮頸がん発症の主要な原因である、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)の16型と18型の感染、またHPV16・18型が関与する前がん病変の発症をほぼ100%予防します。

世界中の子宮頸がんの約70%は16・18型が原因といわれています。

残り30%は他のHPVが原因のため予防することができません。そのため、がん検診は今後も定期的に受けましょう。

また、既に発がん性HPVに感染している方に対する治療効果や症状の悪化はありません。感染状態をしっかりと経過観察されながら、次の感染予防のためにワクチンを接種するかどうか、医師とご相談ください。

- ◆ ワクチンを3回接種することにより、その効果は少なくとも20年間は維持されると推計されています。

HPVは性行為で誰にでも容易に感染しますが、そのほとんどが自然に消えてしまうウイルスです。

残念ながらHPVの自然感染では、その免疫を得られにくいといわれています。そのため性活動がある間は一生、感染のリスクがあり、何度でも感染を繰り返します。そのことから、ワクチン接種の意義があるといえるでしょう。

詳しい情報は [コチラ http://allwomen.jp/prevention/vaccine.html](http://allwomen.jp/prevention/vaccine.html)